

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	地域介護福祉空間整備事業	会計	一般会計	事業No.	212	施策順No.	35-023
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-1-4-10-14		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	18	終了	22	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市の高齢者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		65歳以上の高齢者数		29020	29440	29615	29523	
	意図	住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにする。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	整備施設数			5	6	6	1	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		介護サービスの基盤となる施設が整備された。また、施設内に交流スペースを設けた施設では、地域に開かれた施設となり交流が促進される。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	住み慣れた地域で暮らし続けることができるようにするため、地域の実情に合わせて介護サービス基盤を整備していく。 ・介護老人保健施設(定員29人)の整備、認知症高齢者グループホーム整備(定員9人×2施設)、小規模多機能型居宅介護施設整備(登録定員24人) ・介護老人保健施設改築に併せ地域共生型スペースを整備し、地域に開かれたスペースとして活用を図る。(介護老人保健施設ゆうゆう備品整備)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 小規模老人保健施設整備 定員29人×1施設 2 認知症高齢者グループホーム整備 定員9人×2施設 3 小規模多機能型居宅介護施設整備 登録定員24人×1施設 4 介護老人保健施設ゆうゆう備品整備	1 整備施設数 2 整備施設数 3 整備施設数 4 整備施設数	1 1施設 2 2施設 3 1施設 4 1施設
23年度実施計画	1 認知症対応型デイサービスセンター	1 整備施設数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (国)地域介護・福祉空間整備推進交付金3,000千円 (県)介護基盤緊急整備等臨時特例基金事業123,750千円 21→22繰越明許費 43,750千円
	国庫支出金		3,000	3,000		
	県支出金		123,750	123,750		
	起債					
	その他					
一般財源						
計(A)		126,750	126,750	0		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)				0		
トータルコスト A+B			126,750			

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分		具体的な取組事項	
21年度決算と比べての効果額(千円)		効果額説明(算出根拠)、特殊要因	

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	安心していきいき暮らせる	施策の成果指標又はムトス指標	安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	住み慣れた地域で安心して暮らせる地域の高齢者等の交流拠点の整備が図られた。		
	後期に向けた課題	認知症高齢者の介護は、24時間見守り等で家族の介護負担が大きい。この為、地域密着型等の介護施設は継続して整備していく必要がある。介護保険第5期計画における施設整備数の検討。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	市域における高齢者支援の均衡ある展開が図られるよう、通所介護施設等の整備を進めてきた。		
	後期に向けた課題			
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	介護施設等を対象とした国県補助金等の有効な活用。		
	後期に向けた課題	地域により偏りのない施設整備。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	要介護高齢者の4割以上が認知症状が合併しているといわれており、高齢者の適切な介護及び家族の介護負担軽減を図るためにも、行政による介護基盤整備は必要と考える。		
	後期に向けた課題	認知症高齢者等関連施設の継続的な整備。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果た しましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけを してきましたか、又は、配慮して きましたか	4年間の振り返り	①NPO法人、社会福祉法人等の事業者による施設整備と運営。指定管理者による施設運営、まちづくり委員会など地元住民の支援と協力。 ②施設建設の推進、地元のまちづくり委員会、関係団体等への協力と計画推進の取組支援。		
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	高齢者がその人らしく自立して暮らすためには、地域に密着した介護サービスや介護予防、健康増進事業などが重要であり、地域における福祉の拠点の役割は大きい。また、在宅介護困難者にとってグループホームや小規模多機能施設での受け入れにより介護負担軽減が図られる。		
	後期に向けた課題	地域ごとにバランスのとれた施設整備		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要がある ですか	ある	対象や意図を修正する 必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する 必要がありますか	ない
--------------------------	----	------------------------	----	---------------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------